

Pocket Drugs 2014

福井次矢 監修

小松康宏, 渡邊裕司 編

＜書評者＞ 徳田安春（地域医療機能推進機構研修センター長・
総合診療教育リーダー）

くすりの種類は年々膨大となっており、薬剤についての広範囲に及ぶ知識はもはや医師の記憶容量の限界を超えてしまっている。それでもポイント・オブ・ケアの臨床現場では、普段使い慣れていない薬剤についての情報が必要となる場面は多い。そんな時、臨床医はどのようなリソースを用いて薬剤情報を入手しているのだろうか。ネット上や電子カルテ内にある drug information (DI) や添付文書、製薬会社作成のパンフレット、あるいは薬剤出版物などを使用することもあるであろう。DIや添付文書は、網羅的記載ではあるが単調な内容で、重要ポイントがしばしば不明瞭である。また、薬剤パンフレットやチラシはどうしても製薬会社バイアスがあり、信

頼性に乏しい点がある。このようなことから、ネットが普及してベッドサイドでモバイル端末が導入され、検索スピードはアップしたものの、こと薬剤情報についてはほしい情報を得るには意外と苦労する。

最前線で患者ケアに従事する臨床医にとって重要な情報は、薬剤情報の中でもエビデンスサマリーと信頼できる臨床医の生のアドバイスだ。それもあまり長い文章ではいけない。臨床現場では時間管理が常に優先されるからだ。エビデンスサマリーと専門家のアドバイスがバランスよく記述されている『Pocket Drugs』は臨床医にとってとても役に立つリソースとなることは間違いない。

これまで類書は多種類出版され

てきた。しかし、これほどバランスよく、きちんとエビデンスサマリーと信頼できる臨床アドバイスが配合されたものはなかった。これまで長年、ベストセラーの上位に君臨してきた『今日の治療薬』に対して、最強のライバルが登場したといっても過言ではないだろう。Less is More を提唱する評者にとって、薬価情報も記載されていることは嬉しい限りである。わが国の多数の医師が薬価も考慮しながら、エビデンスと専門家アドバイスに基づいた処方を行うことになれば、国民にもたらされる利益は莫大なものとなる。このような情報リソースはアップデートが重要なので、毎年の改訂が望まれる。その意味で、150人以上もの執筆者そして編集者、監修者には大変な持続的労力を覚悟の上で出版されたことを感服する次第である。

●A6 頁1312 2014年
定価：本体4,200円＋税
[ISBN978-4-260-01751-0]
医学書院刊